

去年の梅雨前のことである。

ふたりして頻繁に台所に立つ。食器洗いする訳でなく妻の調理の手伝いでもなく、ただひたすらふたりで台所の空間を見つめてジッと立つ。

何をしているのかというと、コバエ君退治に集中しているのだ。

おや？現れたかな？と思っっている内に、二、三匹がのどかに舞っていたり、濡れた台布巾やシンクの壁面に凶たく羽根を休めてリラックスする姿を前にして見過ごせなくなった。

掃討作戦に先ず妻が本腰を入れた。

そこで、白内障の手術ですっかりフクロウとマサイ族を一緒にしたような眼を得た妻、眼力の凄さをコバエ君退治でも発揮したのである。

これまでコバエ君から愚弄されつ放しであった妻。それが、

どこにそんな敏捷性があつたのかと驚くほどの素早い身のこなしで彼らを討ち取るようになったのである。僕が外した獲物を叩いては、ほら、この通りと手の平を見せに来る。ほぼ楽しんでる。

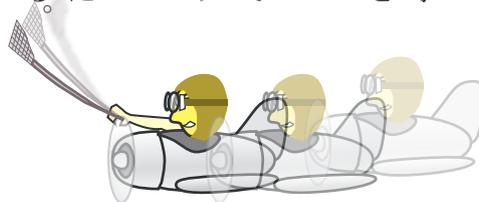
比喻はやや極端になるが、昔の単座（一人乗り）戦闘機による空中戦は、相手の後方に回り込んだ方が圧倒的に優勢であった。後ろに目を持たないため、回り込まれると一方的に機銃を浴びることになる。

したがって、レーダー登場以前の昔の戦闘機乗りは索敵中に如何に早く相手を見つけて後方に回り込むかに全神経を傾けていた。そこで大事になったのが視力である。訓練して2以上の視力を目指したそうだがもちろん動体視力と銃を操る手元の敏捷性が抜きん出でいなければならぬ。

コバエ君退治でも、妻の優れた視力が物を言うようになった上、さらに、驚くべきことに動体視力と手元の敏捷性を伴っていたということだ。

動体視力に敏捷性（反射神経）、思い当たるふしがある。

ごく最近の我らのニンテンドーDS「テトリス」勝負、「マラソン」編でなく、より敏捷性を競う「スピード」編で妻は常に僕を凌駕している。以前にも感じたことだが、頭と指先のシンクロが素早く機能する敏捷性が僕より勝っているのだ。それは、同DSの「細菌撲滅」な



ど永年の執拗なるゲーム遊びによって動体視力と敏捷性が鍛えられたのだと思う。

それと子供の頃、親のお仕置きから逃れる瞬時の足の速さを自慢していたような話を聞いたことがあるが、その痕跡が脳に残っていたのかも知れない。

ひよっとして妻には戦闘機乗りに必要な技量を持ち合わせているのかも知れないとさえ思ってしまう。

やや、大袈裟になってしまったが、細菌撲滅ならぬコバエ君撲滅に向けて、妻のその能力をいかに発揮できると僕は確信した。

ついでながら、こここのところ、妻の頭が活性化してきたように感じている。

コバエ君攻略においても、最近ハマっているネバネバ度の強力な麹納豆を5粒ほどアルミパックに入れて誘い込みをしたり、壘からはがしたネバネバのレットルを広げて捕獲用にしたたり、スプレー攻略を試みたり：その効果は乏しいが、それでも長澤まさみ君のCMでおなじみのコバエホイホイに頼るよりマシだ。スプレー攻略なんぞは、コバエ君の羽根が水滴を浴びて飛翔能力を奪われ頓挫する様子をほくそ笑んだり、また動体視力に物言わせて、シンクの上を飛翔するコバエ君を鮮やかに平手で水面に叩き落とし、バタバタと溺れ悶えるさまを得意げに見下ろし溜飲を下しているのだ。まさに妻は空中戦を楽しんでいる。

実はコバエ君攻略、ついに終焉を迎えることになった。

妻の執拗な努力が実を結び、彼らのアジトを突き止めたのだ。台所の隅に置いてあつたビニール袋の中、サトイモのひとつが黒く傷んでいた。そこが基地に違いない、そう確信した妻は早速アジトを掃討。僕に向って、グーサイン！勝ち誇る笑みがこぼれたのであった。

確かに、それからの台所は平静を取り戻して、コバエ君さよなら♪ さよならコバエ君♪また会う日まで：などと口ずさむ、やや寂しい気もする日常に戻った。

しかし今年また、梅雨を前にしている。